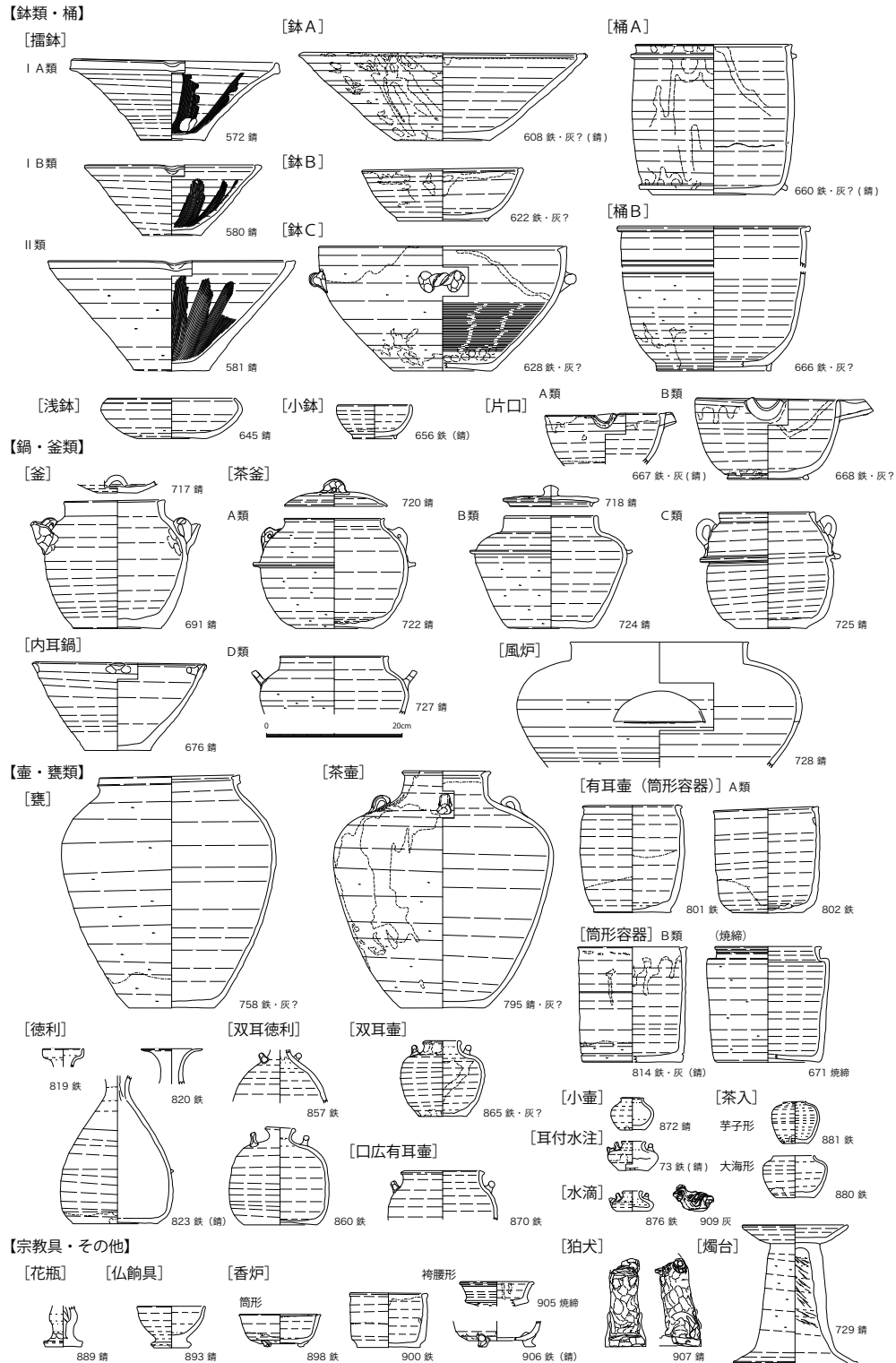


III. 刊行報告書抄録

第173集 上品野西金地遺跡

上品野西金地遺跡は、品野盆地北東に位置し、桑下城跡、桑下東窯跡から連続する丘陵斜面から低地にかけて立地する。丘陵斜面からは大窯期前半の陶器22,762点が出土した。出土した器種は多様で、保存状態も良好であることから、遺跡付近は周辺に流通する大窯陶器の集積地として利用されていたと推測される。その他、縄文時代後期中葉の貯蔵穴、古代・中世の掘立柱建物等を検出した。(早野浩二)



大窯期前半の陶器各器種 (碗皿類以外)

報告書抄録

ふりがな	かみしなのにしかねじいせき
書名	上品野西金地遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第173集
編著者名	早野浩二(編集)・川添和暁・パレオ・ラボAMS年代測定グループ・佐々木由香・バンダリ スタルジャン・黒沼保子
編集機関	公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017 愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24 TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2013年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かみしなのにしかねじ 上品野西金地 いせき 遺跡	あいちけんせとし 愛知県瀬戸市 かみしなのちょう 上品野町	23204	03710	35度 10分 50秒	136度 54分 01秒	1998.02.17 ～1998.03.01 2006.09.11 ～2007.03.27	100 3,400	一般国道 363号線 道路改良 工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上品野西金地 遺跡	集落	縄文 古代 中世 戦国 近世	貯蔵穴 掘立柱建物 掘立柱建物、溝 土坑 掘立柱建物	石器、縄文土器 土師器、須恵器、灰釉陶器 山茶碗、古瀬戸陶器 大窯陶器 瀬戸美濃陶器、木製品	有舌尖頭器の出土 縄文時代の貯蔵穴の 検出 大窯期前半の陶器の 大量出土

文書番号	発掘届出(10埋セ第62号 平成11年2月27日) (18埋セ第10号 平成18年5月17日) 通知(10教文第61-3号 平成11年3月17日) (18教生第625号 平成18年6月22日) 終了届・保管証・発見届(10埋セ第115号 平成11年3月17日) (18埋セ第112号 平成19年3月27日) 鑑査結果通知(11教文第61-3号 平成11年5月22日) (19教生第466号 平成19年5月23日)
------	---

要約	上品野西金地遺跡は、品野盆地北東に位置し、桑下城跡、桑下東窯跡から連続する丘陵斜面から低地にかけて立地する。丘陵斜面からは保存状態が良好な大窯期前半の陶器が大量に出土したことから、遺跡付近は周辺に流通する大窯陶器の集積地として利用されていたことが推測される。 その他、縄文時代の貯蔵穴、古代・中世の掘立柱建物等を検出した。
----	--

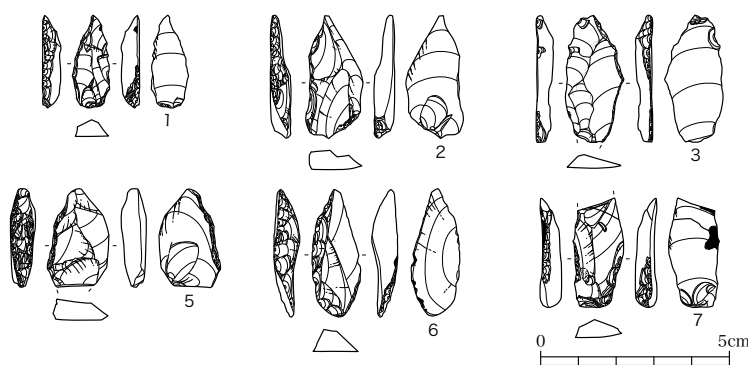
第174集 西牧野遺跡

本遺跡は岡崎市内旧額田郡額田町豊富地区に所在し、盆地地形の低位段丘上に立地する。2年度に渡る調査で本センターは前半の1年度を担当し、遺跡西半と東端部分の調査を行った。当初、中世が主体となる遺跡となる予定であったが、基盤層の洪積層内に旧石器時代遺物が存在することが明らかになり、旧石器時代が調査の中心となった。

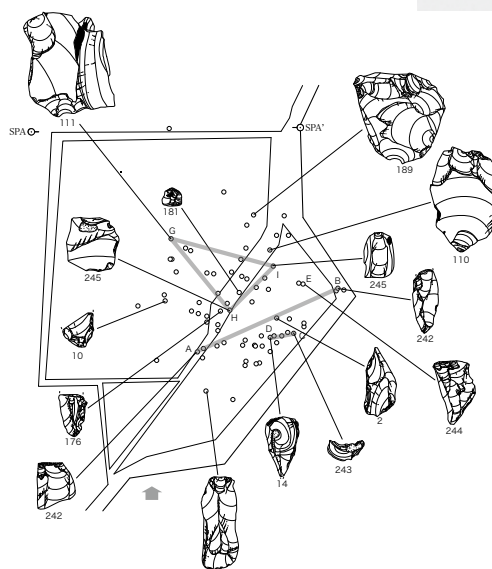
上面である基盤層面の調査では中世の集落、墓域に関連する遺構を検出した。掘立柱建物、竪穴状遺構によって構成され、溝によって区画される屋敷地を確認した。中世の墓域では、方形土坑墓群と14世紀代の地下式墳が検出された。その他、縄文時代の土坑、弥生時代方形周溝墓などの遺構を確認した。

基盤層内の調査では旧石器時代の石器および礫等が約1,400点出土した。遺物は関東南部の編年で第Ⅲ・Ⅳ期に相当し、ナイフ形石器・搔器・削器・石錐・角錐状石器等が出土した。石材は第Ⅲ期は凝灰岩、第Ⅳ期は黒曜石が主体となる。層序および遺物出土状態から原位置より移動した再堆積層と原位置を保つ2種類の出土状況が認められる。約900点の遺物が集中した部分は旧河道に緩やかに傾斜する地形で約80cmの土層が基本3層に分層され、第Ⅲ・Ⅳ期の石器類が混在した状態で出土している。旧河道から離れた地点で第Ⅳ期の石器が水平面で集中して検出され、この時期の文化層面が確認された。石核と製品、細片が出土し、石器製作が行われたと推定される。

今回の調査後、遺跡の東半が愛知県埋蔵文化財調査センターによって調査され、第Ⅲ期を主体とする時期の遺物が出土している。この調査成果を含め、県内の調査資料を集積して旧石器時代遺物の編年を検討することが今後の課題となる。(酒井俊彦)



ナイフ型石器



C区TP石器出土状態

報告書抄録

ふりがな	にしまきのいせき
書名	西牧野遺跡
副書名	
巻次	1
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第174集
編著者名	酒井俊彦
編集機関	公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017 愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24 TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2013年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
にしまきのいせき 西牧野遺跡	あいちけんおかざきし 愛知県岡崎市 かしやまちょう・まきひらちょう 檜山町・牧平町	23202	620028	34度 54分 54秒	137度 17分 04秒	2009.04.01 ～2010.03.31	13,440	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
西牧野遺跡	集落	旧石器 中世	旧石器時代遺物包含層 掘立柱建物 土坑 溝 土坑墓 地下式墳 竪穴状遺構	ナイフ形石器 削器 搔器 山茶碗 土師器 古瀬戸施釉陶器	

文書番号	発掘届出（21埋セ第4号 平成21年4月3日） 発掘許可（21教生第199号 平成21年4月23日） 調査終了届（21埋セ第132号 平成22年3月8日） 遺物発見届（21埋セ第132号 平成22年3月8日） 埋蔵文化財保管証（21埋セ第132号 平成22年3月8日） 埋蔵文化財認定（21教生第2891号 平成22年3月29日）
------	--

要約	西牧野遺跡は岡崎市東部の三河山地に所在する遺跡である。矢作川支流である男川左岸の河岸段丘上に立地する。段丘洪積層より旧石器時代のナイフ形石器、削器、搔器、石器剥片・石核など約4,400点が出土した。部分的に文化層面を検出し、礫群が確認された。主体となる時期は関東南部の編年で第Ⅲ・Ⅳ期である。洪積層上面で、縄文時代中-晩期、弥生時代中期、中世、近世の遺構が検出された。中心となるのは中世で、掘立柱建物、土坑、溝、土坑墓、地下式墳が検出され、集落とそれに対応する墓域が確認されている。遺物は山茶碗、瀬戸窯産施釉陶器、土師器などが出土した。
----	--

第175集 下津宿遺跡

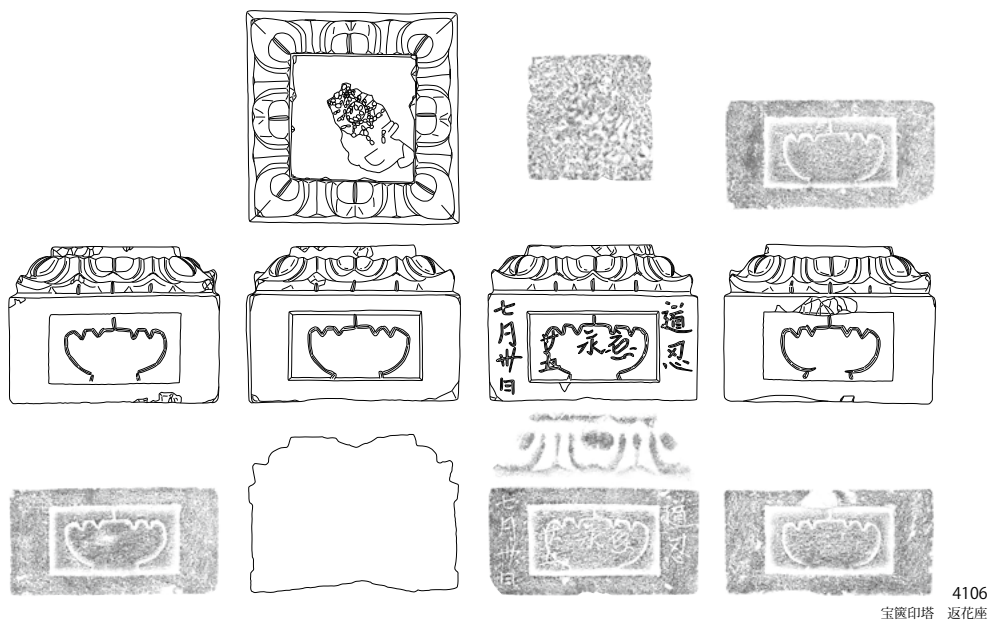
稲沢市下津宮西町および下津本郷町に所在する下津宿遺跡は、室町期に尾張守護所が置かれ、遺跡を縦断する鎌倉街道とともに、尾張の政治・経済の中心地として栄えたことが、多くの文献からもわかっている。

平成22・23年度の2カ年にわたる調査では、本遺跡は平安後期（10世紀代）に形成され、鎌倉期（13世紀第2四半期）以降は継続して人の集住が認められることがわかった。

地籍図からの検討どおり、10Ea・Ec区では鎌倉街道とみられる道状遺構を確認した。路面幅は約15mを測り、10Ec区においては、人工の盛り土による大規模な造成をおこなっていた。

さらにこの盛り土の下層で確認された井戸からは、応永25（1418）年の紀年銘をもつ宝篋印塔が出土したこと、さらに造成土内出土の土器により、本遺跡内における鎌倉街道の整備が15世紀の第2四半期～第3四半期にかけておこなわれたことが明らかとなった。

文献上、守護所の初出が1411年であることから、守護所の設置後ほどなく鎌倉街道が整備され、さらにこの街道に面して多数の大寺院や屋敷地、さらには商工業者による市や工房が展開したことが明らかとなった。（樋上 昇）



10Ec区0900SE出土の「応永廿五年」銘宝篋印塔

報告書抄録

ふりがな	おりづしゅくいせき
書名	下津宿遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第175集
編著者名	樋上 昇・鈴木正貴・鬼頭 剛・蔭山誠一・永井邦仁・鶴飼雅弘・黒沼保子
編集機関	公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017 愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24 TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2013年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おりづしゅくいせき 下津宿遺跡	あいちけんいなざわし 愛知県稲沢市 おりづみやにしょう 下津宮西町 おりづほんごうちょう 下津本郷町	23220	090001	35度 15分 20秒	136度 49分 52秒	2010.05.01 ～2011.03.18 2010.04.18 ～2011.06.29	8,830	県道名古屋 豊山稲沢線 建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
下津宿遺跡	集落	平安～ 室町	掘立柱建物 竪穴建物 道路状遺構 溝、土坑	山茶碗、古瀬戸 白磁、青磁、青白磁、 宝篋印塔、五輪塔、 井戸杵、曲物底板	中世鎌倉街道と 推定される道状 遺構、応永25年 の紀年銘をもつ 宝篋印塔

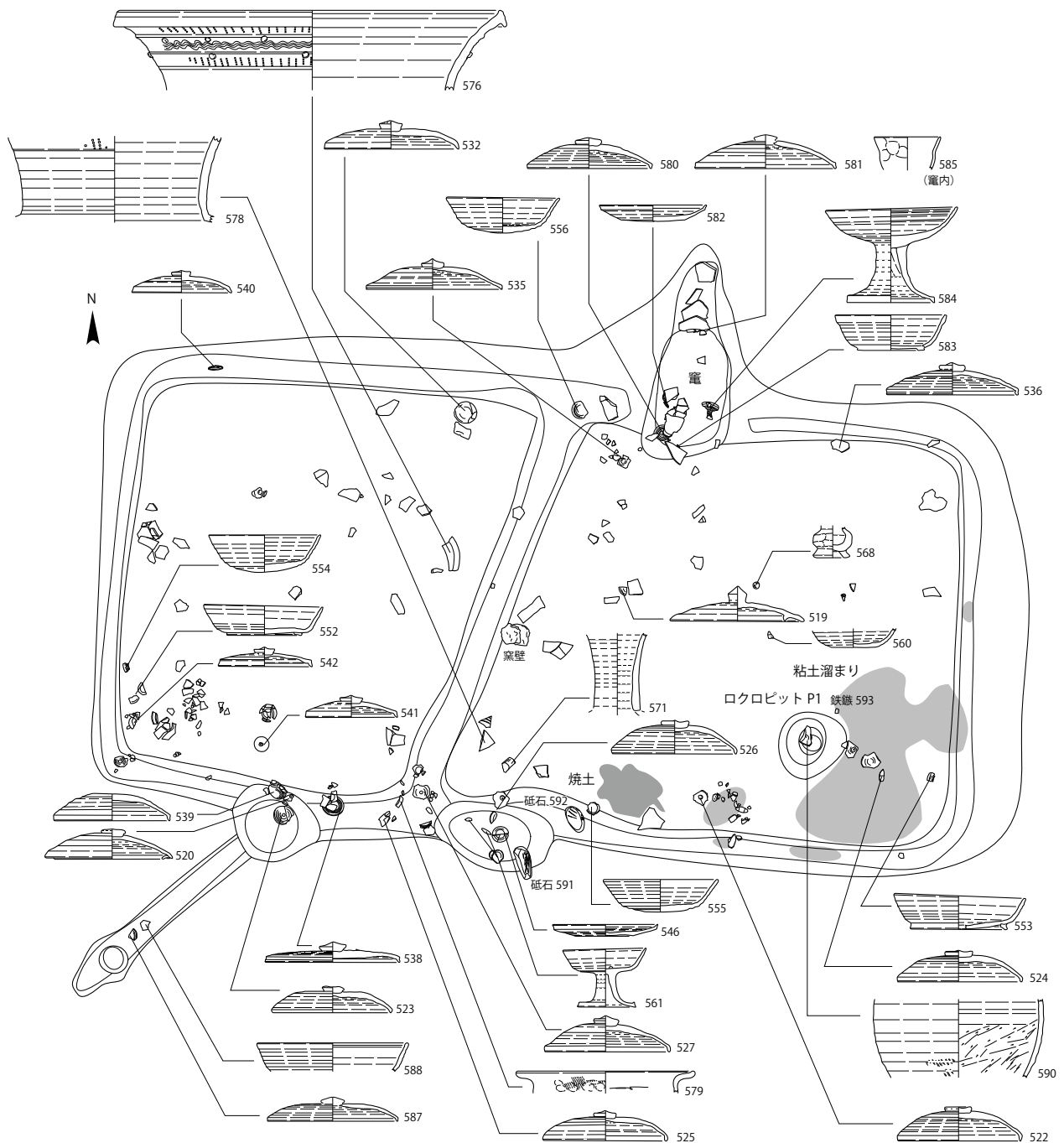
文書番号	発掘届出：埋文（21埋セ第147-1号） 発掘届出：県教委（22教生第196号） 発掘届出：埋文（22埋セ第261号） 発掘届出：県教委（22教生第2792号） 完了報告（22埋セ第268号） 完了報告（23埋セ第52号） 文化財認定（23教生第96号） 文化財認定（23教生第1617号）
------	--

要約	室町期に尾張守護所が置かれた遺跡の調査。平安後期から遺構の形成が始まり、15世紀第2四半期～第3四半期にかけて、鎌倉街道が整備される。これに伴い大溝で区画された都市的景観が出現することが明らかとなった。この鎌倉街道の造成土で埋め立てられた井戸から応永25年の紀年銘をもつ宝篋印塔が出土した。
----	---

第178集 東中田A古窯

東中田A古窯は、一里山窯跡群または湖西窯跡群一里山支群の一角に分布する須恵器窯である。

窯体は大部分が破壊されていたが、反対側の斜面において灰原と別の窯体に付属する土坑、窯体付近において竪穴建物2棟を検出した。竪穴建物は粘土溜まりとロクロピットが付属することから、居住施設兼作業施設として利用されたと考えられる。古窯跡は出土須恵器から7世紀後葉から8世紀前葉にかけて操業したと推測される。確認した須恵器の器種は杯類、(小型の)皿類?、高杯、高盤、鉢、陶白、甕、広口壺、甕、長頸瓶(無蓋長頸瓶、有蓋長頸瓶、大型長頸瓶)、フラスコ形長頸瓶、平瓶(大型平瓶を含む)、小杯、円面硯、陶鍾、陶馬等で、その他、土師器甕、製塩土器が出土した。(早野浩二)



竪穴建物003SX 遺物出土状況

報告書抄録

ふりがな	ひかしなただえーこよう
書名	東中田A古窯
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第178集
編著者名	早野浩二（編集）・パレオ・ラボAMS年代測定グループ・黒沼保子
編集機関	公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017 愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24 TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2013年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ひかしなただえーこよう 東中田A古窯	あいちけんとはしし 愛知県豊橋市 ひかしほそやちょう 東細谷町	23201	790712	34度 41分 33秒	137度 28分 52秒	2007.07.02 ～2007.10.06	1,591	一般国道 23号豊橋東 バイパス 建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
東中田A古窯	古窯	古代	窯体 灰原 土坑 竪穴建物	須恵器・土師器 製塩土器 石製品 鉄製品	灰原出土須恵器 焼成不良杯類の集積 竪穴建物で粘土溜まり とロクロピットを検出

文書番号	発掘届出（19埋セ第22号 平成19年5月23日） 通知（19教生第639号 平成19年7月2日） 終了届・保管証・発見届（19埋セ第69号 平成19年10月17日） 鑑査結果通知（19豊教美第331号 平成19年10月25日）
------	---

要約	東中田A古窯は、一里山窯跡群または湖西窯跡群一里山支群の一角に分布する須恵器窯である。窯体は大部分が破壊されていたが、反対側の斜面において灰原と別の窯体に付属する土坑、窯体付近において竪穴建物2棟を検出した。竪穴建物は粘土溜まりとロクロピットが付属することから、居住施設兼作業施設として利用されたと考えられる。古窯跡は出土須恵器から7世紀後葉から8世紀前葉にかけて操業したと推測される。
----	---

名神高速道路

推定される旧自然河道の北上端

推定される旧自然河道の南上端

07Ja (北)区

07Ja (中)区

07Ja区009SK

07Ja (南)区

07Jb (3)区₁

07Jb (2)区

07Fa区

07Fb区

07Fc (1)区

07Fc (2)区

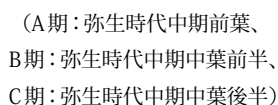
07Fc (3)区

D期 竪穴

D期 土坑

D期 溝

0 1:1000 50m



報告書抄録

ふりがな	まちやいせき
書名	町屋遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第179集
編著者名	蔭山誠一・永井邦仁・永草康次・藤根 久・米田恭子
編集機関	公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017 愛知県海部郡弥富町大字前々須新田字野方802-24 TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2013年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
まちやいせき 町屋遺跡	あいちけんいちのみやし 愛知県一宮市 ちあきちようまちや 千秋町町屋	23203	020034	35度 17分 30秒	136度 51分 44秒	2007.11 ～2008.02	1,600	県道名古屋 江南線道路 拡幅工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
町屋遺跡	集落	弥生中期前葉 ～中期後葉	竪穴建物24棟・ 土坑35基・溝24条	弥生土器・磨製石剣・管玉・ 磨製石斧・石鏃・石錐・敲石 ・凹み石・磨石・砥石・露石 ・炉縁石	弥生時代中期から 弥生時代後期にお ける集落跡を確認。
		弥生後期 ～古墳前期	竪穴建物1基・方形 周溝墓1基・土坑3基 ・溝3条	弥生土器・ガラス小玉	
		古代	土坑3基	須恵器・土師器	
		中世～近世	土坑11基・溝18条	土師器・山茶碗・掃除機	

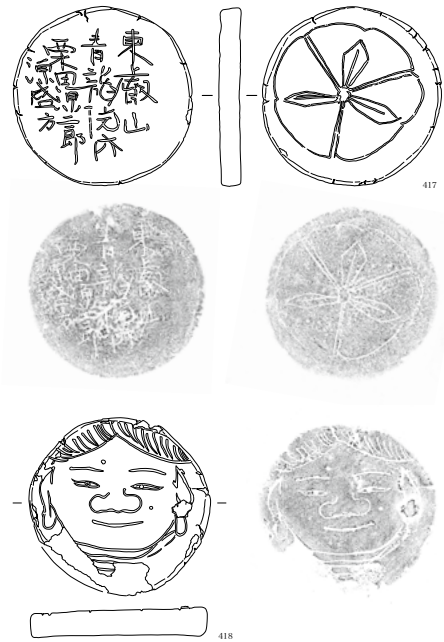
文書番号	発掘届出（19埋セ第51号 平成19年8月23日） 通知（19教生第1305号 平成19年8月31日） 終了届・発見届・保管証（19埋セ第115号 平成20年3月11日） 監査結果通知（19教生第2968号 平成20年3月24日）
------	--

要約	今回の発掘調査成果とこれまでの調査地周辺にて採集された資料の調査によって、これまで内容が不明であった当遺跡について、遺跡の範囲が南北約370m、東西約200mの範囲に広がることを明らかにした。また、遺構変遷と出土遺物の検討から弥生時代中期前葉から遺跡が形成され、弥生時代中期後葉にかけて居住域が広く展開し、同時に弥生時代中期中葉後半から方形周溝墓からなる墓域が形成されることを指摘した。続く弥生時代後期には居住域と墓域の範囲が急速に小さくなり、古墳時代には遺構が消滅することを明らかにした。そして古代には、遺跡の北側に墓が小規模に形成され、中世から近世にかけて土坑や用水路と思われる溝が営まれたことを明らかにした。
----	---

第180集 滝町古窯

岡崎市滝町に所在する滝町古窯は、19世紀第2四半期頃を操業時期とする窯跡遺跡である。青木川右岸の丘陵先端付近、標高50m前後の西向き斜面に窯体1基と物原の一部が検出された。生産器種は磁器の小型碗類(広東碗・端反碗・筒形湯呑)が中心であり、これに少量の陶器製品(小型の碗類・急須・行平など)が加わる。磁器製品は器形と染付文様ともに瀬戸窯製品と区別が困難なほど似通っている。窯体は全長約11m、最大幅は推定で5.5m程度の規模をもつ縦狭間構造の連房式登窯であり、やはり瀬戸窯の技術を導入して成立したと考えられる。

窯がつくられた地点は、江戸時代を通じて天台宗瀧山寺の寺領であった土地であり、しかも出土した窯道具の中に上野寛永寺とのつながりを示す刻書が発見された。瀧山寺は近世初期に寛永寺の末寺となっており、滝町古窯の成立・経営に大きく関与したと考えられる。(武部真木)



刻書・刻画のある窯道具



調査区全体図

報告書抄録

ふりがな	たきちょうこよう
書名	滝町古窯
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第180集
編著者名	武部真木(編集)・堀木真美子
編集機関	公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017 愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24 TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2013年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
たきちょうこよう 滝町古窯	あいちけんおかざきし 愛知県岡崎市 たきちょう 滝町	232025	510330	34度 59分 04秒	137度 12分 01秒	2008.04 ～2008.10	400	急傾斜地 崩壊対策 事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
滝町古窯	窯跡	江戸	窯体1基 物原	近世陶磁器・窯道具類	「東叡山」刻書のある エブタなど

文書番号	発掘届出(20埋セ第1号) 通知(20教生第204号) 終了届(20埋セ第74号) 発見届・保管証(20埋セ第74号) 監査結果通知(20教社第722-1号)
------	---

要約	19世紀第2四半期頃に操業した窯跡の調査。連房式登窯(1基)と物原の一部を確認した。磁器の小型の碗類を中心に焼成しており、製品の特徴や焼成技術などは瀬戸地域の窯跡と共通する部分が多い。天台宗瀧山寺の領内にあり、この寺院が経営に関与していた可能性が高い。
----	--

第181集 桑下城跡

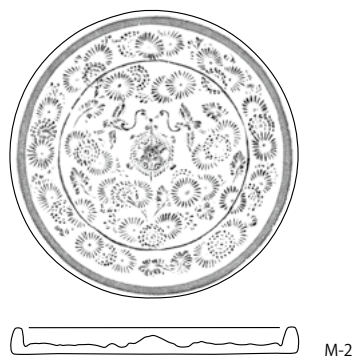
桑下城跡は瀬戸市上品野町地内に所在し、瀬戸市の北東部丘陵地に立地する。発掘調査は、国道363号道路改良工事に伴う事前調査として平成16・19・20・21年度に実施され、整理と報告書作成作業は平成22・23年度に、報告書刊行は平成24年度に行った。

桑下城は、近世の城館絵図「春日井郡上品野村古城絵図」（蓬左文庫蔵）に見られる。絵図は廃城後の状況が描かれ、本丸の北堀の一部は「水堀」として、本丸の北東部分に土塁、本丸の東と南側に曲輪が描かれているが、本丸の西側は「芝」と書かれ曲輪はない。蓬左文庫蔵の絵図作成は正保年間（1645～1648）にはじまり、慶安（1648～1652）もしくは承応年間（1652～1655）の初期には完了したと推測されている。

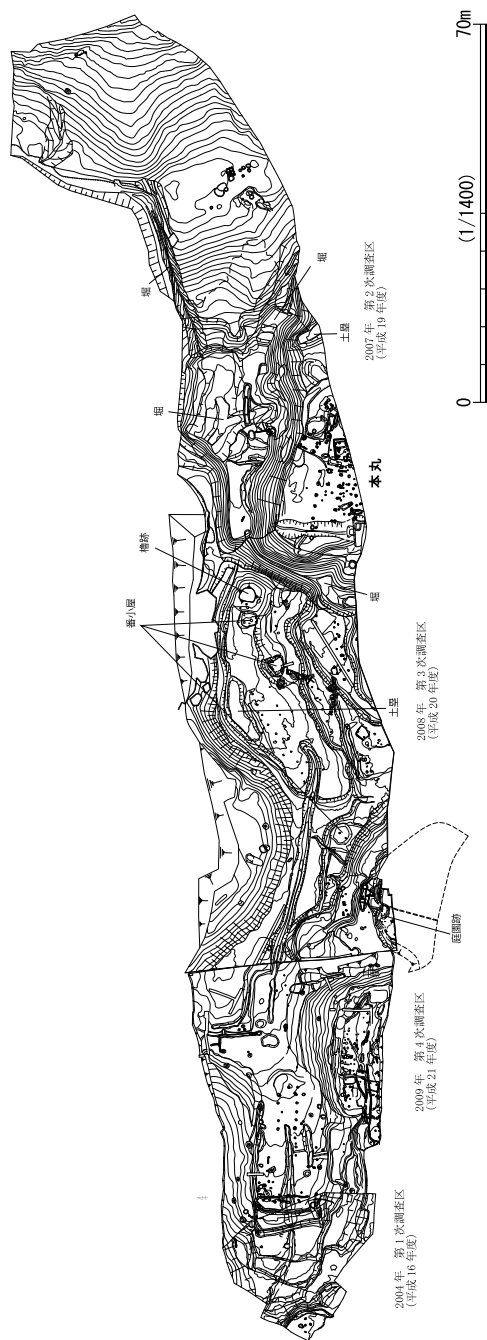
調査範囲は城の北側、裏手部分の一部で桑下城全域の調査ではない。西、北、東の三方に空堀を巡らせた本丸と、その西側、「古城絵図」では「芝」と書かれた場所に櫓台と土塁、曲輪、さらに西側にも曲輪群が続き合計14ヶ所の削平地、曲輪、腰曲輪が構えられていた。本丸部分と西側部分では曲輪の規模の違いが見られ、地形の制約もあるが、在地領主の屋敷を拡大し居館、城へと丘陵を造成していったようである。

出土陶器片より点数が多い時期は後期Ⅳ新（1460～1480）段階から大窯2（1530～1560）段階で、隆盛した時期は大窯1（1480～1530）段階となる。常滑産甕は常滑編年10型式で15世紀第3四半期頃、いずれにしても城の成立が15世紀後半以降、廃城の時期は松平氏と織田氏との同盟関係成立後と考えられる。

北東堀から出土した鏡面が映る菊花双鶴鏡は、熊野速玉大社の古神宝中の鏡と類似点が多いことから、14世紀中頃に製作された鏡で伝世品である。毛彫りによる精緻な唐草文の鋳形台が09区9曲輪より出土した。（小澤一弘）



菊花双鶴鏡 拓影



調査区全図

報告書抄録

ふりがな	くわしたじょうあと
書名	桑下城跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第181集
編著者名	小澤一弘・武部真木・堀木真美子・宇佐見 守・伊奈和彦
編集機関	公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017 愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24 TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2013年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
くわしたじょうあと 桑下城跡	あいちけんせとし 愛知県瀬戸市 かみしなのちょう 上品野町	23204	030624	35度 15分 24秒	137度 08分 19秒	1次 2005.01 ～2005.03 2次 2007.08 ～2008.03 3次 2008.08 ～2009.03 4次 2009.09 ～2010.01	10,400	国道363号 道路改良 工事

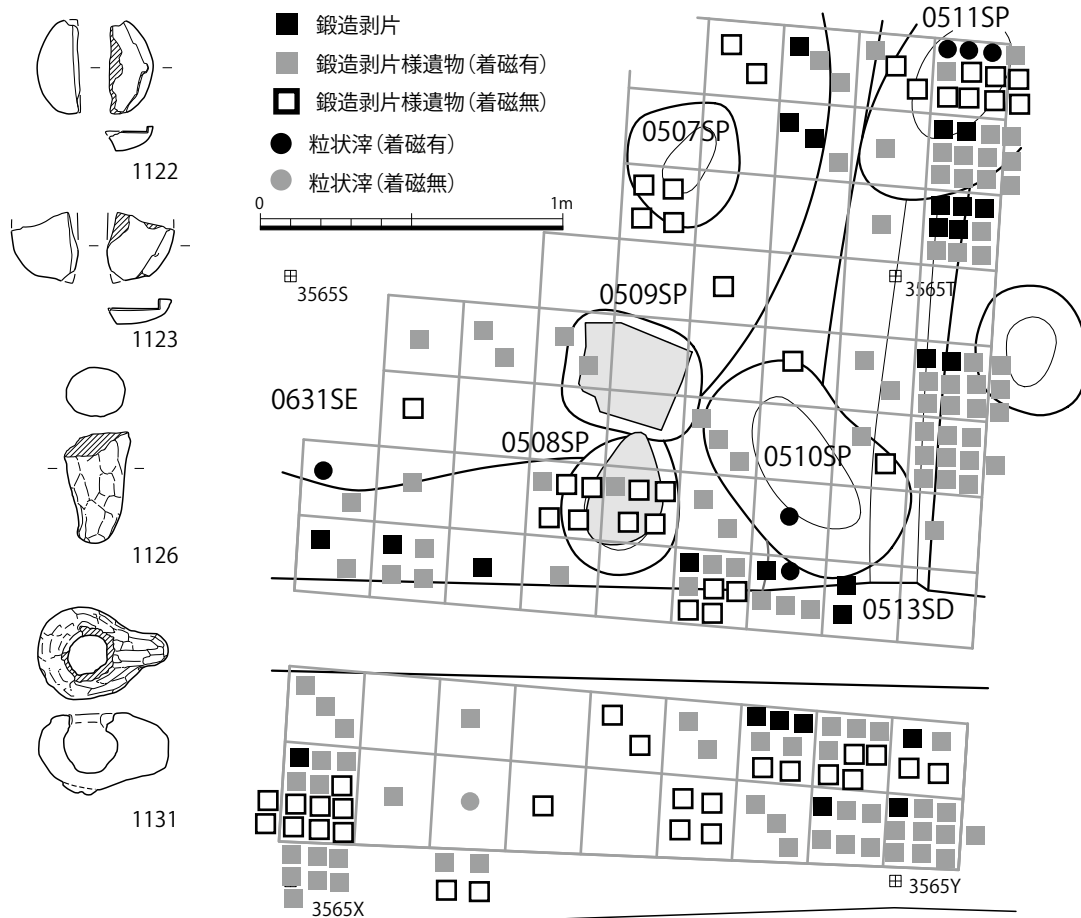
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
桑下城跡	城館	戦国	堀 礎石建物 掘立柱建物 竪穴状遺構 土塁 柵列 庭園 井戸	菊花双鶴鏡、鍬形台、 鴛・猪・兎・水鳥の水滴、 茶入、両面硯、砥石、茶臼、 一字一石経、漆器椀、杓子、 竈、床板、鋤状板、 横槌、陽物、連歯下駄、 瓦塔、細石核	07区北東堀より 鏡面が現在でも映 る菊花双鶴鏡が出土 09区9曲輪で焼土 層を確認、鍬形台、 髪簪が出土

文 書 番 号	平成 16 年度 発掘届出（16 埋セ第 70 号） 通知（16 教生第 1569 号） 終了届（16 埋セ第 143 号） 発見届・保管証（16 埋セ第 143 号） 監査結果通知（16 教生第 2143 号）
	平成 19 年度 発掘届出（19 埋セ第 37 号） 通知（19 教生第 950 号） 終了届（19 埋セ第 124 号） 発見届・保管証（19 埋セ第 124 号） 監査結果通知（20 教生第 289 号）
	平成 20 年度 発掘届出（20 埋セ第 42 号） 通知（20 教生第 1045 号） 終了届（20 埋セ第 114 号） 発見届・保管証（20 埋セ第 115 号） 監査結果通知（20 教生第 3276 号）
	平成 21 年度 発掘届出（21 埋セ第 47 号） 通知（21 教生第 1038 号） 終了届（21 埋セ第 109 号） 発見届・保管証（16 埋セ第 109 号） 監査結果通知（20 教生第 2715 号）

要 約	『古城絵図』に描かれた「本丸」の北側と本丸西側の「芝」部分の調査。本丸の周りは西堀（薬研堀）、北西堀（箱堀）、北堀、北東堀、東堀（薬研堀）の堀が、本丸北辺に礎石建物 1 棟と掘立柱建物の柱穴、本丸西側から平坦に削平された曲輪が 04 区 8 箇所、09 区 9 箇所、08 調査区 14 箇所を調査した。竪穴状遺構 3 棟、庭園の一部、09 区 9 曲輪では焼土層を含む 3 面を確認した。丘陵全体を利用した館城で、屋敷地から居館、そして大規模な改修による城への変化が見られる三河と尾張の国境の城である。
-----	--

第183集 清洲城下町遺跡 XI

清須市に所在する清洲城下町遺跡は、五条川流域の沖積低地にあり、その自然堤防から後背湿地に立地する。今回の調査地点は、清須城の南辺中堀の外側に位置し、武家屋敷域の南端部に相当する。調査の結果、4期に大別される遺構や遺物が確認された。調査成果は多岐にわたるが、戦国時代から江戸時代初期までの城下町期を中心に金属製品加工に関連する遺構や遺物が多数確認されたことが最も注目される。こうした金属加工は、大窯第2段階から第3段階頃（16世紀中頃）に本格的に開始されたとみられるが、この段階の屋敷割は復元が困難な状態である。最終的に、織田信雄の清須大改修を経て短冊型地割を呈する町屋が形成され、そこで操業が営まれるようになったと考えられる。織豊系城下町の発展過程を考える上で貴重な資料になったといえよう。（鈴木正貴）

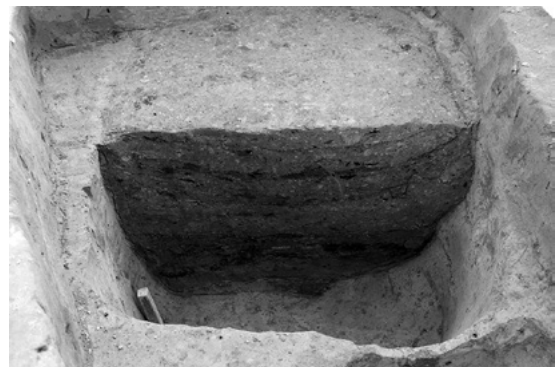


鍛造関連遺物実測図

石埋設遺構周辺の鍛冶関連遺物出土分布図



石埋設遺構0508SP・0509SP



0353SK土層断面

報告書抄録

ふりがな	きよすじょうかまちいせき じゅういち
書名	清洲城下町遺跡 XI
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第183集
編著者名	鈴木正貴・鈴木恵介・奥野絵美・鬼頭 剛・大澤正己・鈴木瑞穂・黒沼保子
編集機関	公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017 愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24 TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2013年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
きよすじょうかまち 清洲城下町 いせき 遺跡	あいちけんきよすし 愛知県清須市 きよす 清洲	23233	210002	35度 02分 58秒	136度 06分 57秒	2010.04.19 ～2010.08.31 2011.08.17 ～2011.12.27	2,390	街路新設 改良工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
清洲城下町 遺跡	集落	奈良～平安	竪穴建物、土坑など	須恵器、土師器、灰釉陶器など	金属加工を操業した 清須城下町の町屋 に関する良好な一括 資料
		鎌倉～室町	井戸、溝など	山茶碗類、土師器、木製品など	
		戦国～ 江戸初期	掘立柱建物、溝、井戸、 土坑、鍛冶遺構など	瀬戸美濃窯産陶器、土師器、 木製品、金属関連遺物など	
		江戸	礎石建物、井戸など	陶磁器、土師器、瓦など	

文書番号	発掘届出（21埋セ第146号）（23埋セ第57号） 通知（22教生第119号）（23教生第1020号） 終了届・保管証・発見届（22埋セ第141号）（23埋セ第140号）
------	---

要約	今回の調査で確認された遺構や遺物は、古代・中世・城下町期・近世の4期に大別される。中でも戦国時代から江戸時代初期にかけての城下町期では、前期では武家屋敷群の南端が、前期後葉から後期では町屋が展開したとみられる。特に、町屋が展開した段階では、長方形土坑などの遺構が重複して多数検出され、これらの遺構から陶磁器・土器類とともに多量の金属関連遺物が出土した。鍛造剥片や鋳型の存在から、鍛錬鍛冶や鋳造作業が行われていたと推定され、16世紀中頃以降に付近一帯が金属加工を中心とした町屋が存在したことが明らかとなった。
----	---

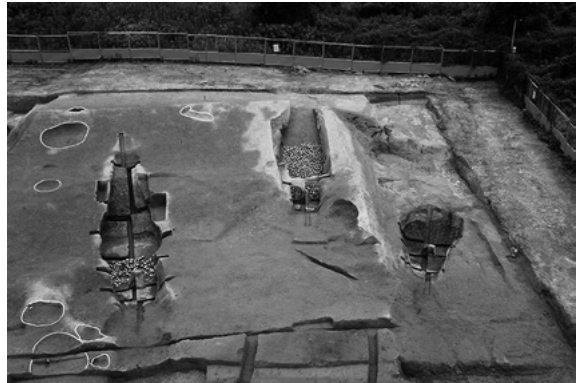
第187集 別嶺古窯群

別嶺古窯群は大府市共和町別嶺に所在し、猿投窯鳴海地区有松支群の南端部に位置する古窯となる。発掘調査は内陸用地造成事業に伴い、平成21年5月に範囲確認調査、平成22年4月～7月には面積1,200㎡の本調査を実施した。

発掘調査の結果、窯体3基(001SY～003SY)とこれらに伴う灰原や築窯排土整地層、土坑数基を検出した。

このうち、001SYは天井部の一部と窯体の床面がほぼ残存しており、全長が11.1m。焼成室最大幅は2.6mをはかる。002SYは煙道部を失っているが、焼成室の天井部がほぼ残存する。各窯体の断ち割り調査の結果、001SYと002SYで焼成不良の椀を敷き詰めた床面下施設を確認できた。なお、窯体の前後関係は、001SY→003SY→002SYと変遷することが確認されている。

出土遺物はその大半が001SY～003SYの焼成品である灰釉系陶器(山茶碗)とその窯道具(焼台)である。製品は、碗・小碗(小皿)にほぼ集約された単純なものとなっており、操業期間は12世紀中頃～13世紀前半と想定する事ができる。(池本正明)



全体図 1:400

報告書抄録

ふ り が な	べっそこようぐん							
書 名	別唄古窯群							
副 書 名								
巻 次								
シ リ ー ズ 名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第187集							
編 著 者 名	池本正明・石井香代子・藤根 久・菊池有希子・小林克也・井上 巖							
編 集 機 関	公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター							
所 在 地	〒498-0017 愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24 TEL 0567(67)4161							
発 行 年 月 日	西暦2013年3月31日							

ふ り が な 所 収 遺 跡 名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
べっそこようぐん 別唄古窯群	あいちけんおおふし 愛知県大府市 きょうわちょうべっそ 共和町別唄	23223	440042	35度 03分 02秒	136度 56分 27秒	2010.05 2011.04 ～2011.05	100 1,200	内陸用地 造成

所 収 遺 跡 名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項
別唄古窯群	窯跡	平安～ 鎌倉前期	窯体3基 灰原 土坑	中世陶器		残存状態が良好な 窯体

文 書 番 号	発掘届出（21埋セ第3号 平成21年4月2日）（22埋セ第130号 平成22年3月10日） 通知（21教生第293号 平成21年5月7日）（22教生第2642号 平成22年3月26日） 終了届・保管証（21埋セ第28号 平成21年5月28日）（22埋セ第119号 平成22年7月16日） 監査結果通知（21教生第1093号 平成21年8月18日）（22教生第2088号 平成22年12月24日）
---------	--

要 約	001SY～003SYと命名した3基の窯体を検出している。このうち2基は残存状況が良好で、001SYは天井部が部分的に残存し、床面がほぼ全形を留める。002SYは煙道部を失うが、焼成室は天井部を含めてほぼ残存している。なお、001SYと002SYでは焼成不良の碗を敷き詰める床面下施設も確認している。
-----	--

